

二〇二二年度 一般選抜Ⅱ期 問題

国 語

実施日 二〇二二年三月四日（金）

注意事項

1. 問題はⅠからⅡまであり、7ページまで印刷してあります。
2. 解答は、すべて別紙の解答用紙に記入してください。

札幌大谷大学社会学部地域社会学科

Ⅰ 次の文章は筒井淳也「変化のつかまえ方」(『社会を知るためには』ちくまプリマー新書、二〇二〇年)の一部である。本文を読んで後の問いに答えなさい(設問の都合で原文を一部省略改変した箇所がある)。

家族社会学では、しばしば「系」という概念が登場します。読者のみなさんは、「家系」という言葉を思いつくのではないのでしょうか。家系という概念は、「迎る」という概念と結びついています(「我が家の家系を辿ると武家に行き当たる」)。家系を辿るとき、今の日本社会では基本的に父方のつながりを辿っていきます。このように、家や血のつながりを、父方で辿ることを「父系」といいます。逆に母親を通じて辿る場合には「母系」になります。

(中略)

まずは基本概念の説明から始めましょう。「系」の最小単位は、親と子のつながりです。これを「直系」といいます。直系の対義語は、「傍系」です。傍系とは、あいだにきょうだい関係を①ハサんだ親族関係です。きょうだい、おじ・おば、いとこなどがそれにあたります。さて、直系の親子関係ですが、結婚(ただし一夫一妻とする)すれば最大で四人の「親」との関係が生まれます。父・母・義父・義母ですね。「父系」「母系」という場合、父との関係を基本とする(重視する)のが父系、母との関係を基本とするのが母系、ではありません。そうではなく、「父方」の親との関係を重視するのが父系、「母方」の親との関係を重視するのが母系です。「父方・母方」という場合の「父・母」とは、直系の親子関係の「子」にあたります。「子」には「親の子」という意味と、年齢の小さな子どもという意味がありますが、ここでは前者の意味です。区別するために、しばしば家族社会学では「成人子」という言葉を使うこともあります。もし子が結婚していても子どもがいなくても、その人は父でも母でもありませんから、「夫方・妻方」といったほうがよいでしょう。【 a 】【父系・母系というときには、子どもが生まれ続けることを想定していますから、「父方・母方」という言い方をしているのです。混乱を避けるために、ここでは「夫方・妻方」という言い方も適宜使います。

ここに強烈な「父系」社会があつたとしましょう。ここでは、財産(田畑や家屋)の継承も親から息子、特に長男に対して行われます。姓の継承もそうです。付き合い方も夫方の親に偏ります。同居するなら夫の親、金銭のやり取り、子育ての手伝い(親↓成人子)や介護(成人子↓親)も夫の親に偏ります。お墓も、女性は死んだら夫方の家のお墓に入ります。先祖のお墓参りも、夫方のみです。

純粹な父系社会というのは珍しいものですが、現在日本はどちらかといえば、親や先祖との関係は夫方に偏っています。これは親との居住関係に現れていて、日本で親と同居する場合、多くは夫方の親との同居なのです。もちろん地域差もあります。父系が強いのは、東北地方と北陸地方です。(中略)

さて、このような「系」のあり方は、現在急激に変化しています。特に、^A父系を維持できるための条件が、今の日本社会ではどんどん失われていきます。一般に、家が家業を営んでいて、父親が家長として権限を持っていた時代が終わり、現在の多くの人は会社に雇われて働いています。雇用の浸透です。雇用が増えると、子は親から経済的に独立しますから、親子のつながりである「系」も当然細くなるように思えるでしょう。

しかし、別の変化が「系」の問題を複雑にします。最も影響が強いのは、^B出生率の低下でしょう。家族社会学者の落合恵美子は、「人口学的な理由によって、家制度はいよいよ本当に消滅するか、少なくとも根本から変質せざるをえないところに立ち至って」いると主張します。

たしかに、もし男女が生まれる確率がそれぞれ五〇%で、夫婦が二人ずつ子どもを作るとすれば、「男・男」「男・女」「女・男」「女・女」の組み合わせが確率四分の一ずつで生じますから、およそ四組に一組の夫婦には男の子が生まれないうこととなります。純粹な父系社会であれば、「跡取り」がいなくなり、お墓を受け継ぐ子どもがいなくなるわけです。一人つ子が続けば、仮に八組の夫婦がいたとして、次の代には四組しか男子が生まれず、その次は二組……となり、遅かれ早かれもとの八組の夫婦の家系はすべて途絶えるでしょう。日本の皇室は父系であり、一夫一婦制の採用と出生率の低下で、家系断絶の問題に悩まされていることは読者のみなさんもよくご存知だと思います。

さらに、男子が生まれるかどうかの問題以前に、子どもが育った後でもそもそ結婚・出産に至るのかという問題もあります。二〇一五年の国勢調査によれば、五〇歳時点で一度も結婚をしていない男性は二三・三七%、ほぼ四人に一人にのぼります。そして、住居やお墓(家墓)の継承となると、もつと条件は厳しくなります。というのは、男子が生まれ続けるといふ条件のほか、直系の子孫が同じ地域に住み続ける、という条件も出てくるからです。もちろん住む場所と遠く離れたお墓を維持し続けることは(たいへんな負担を覚悟すれば)可能かもしれませんが、住居の継承は無理です。

【 b 】【 出生率が低下すれば、親との付き合い方にも変化が生じます。もしきょうだいがたくさんいれば、自分以外の誰か(一昔前では長男夫婦)が親の世話をしてくれるだろう、と考えることもできたでしょう。しかしきょうだいの数が少ない現在では、親との関係は男性だろが女性だろが気にせざるを得ないものです。なにしろ、親にとってみてもひとりひとりの子どもとの関係は、数が少ない分密になります。しかも、親が長生きするようになっていきますから、成人後・結婚後に親と付き合い合う期間も長くなります。

そういう意味では、たくさんのきょうだいがいた^㉔団塊の世代(二〇二〇年時点で七〇歳台前半)の人たちのほうが、よっぽど親から自由に結婚生活を送ることができたはずで、団塊の世代の人たちは、親は現在ほど長生きせず、きょうだいも多いので親との関係もあまり負担にならず、そして自分たちの親と違って自分たちは二三人しか子どもをもちませんでしたから、ケア(育児や介護)の負担が前後の世代より小さかったのです。

現在の私たちは、自分の親のみならず、男性でも義理の親との付き合いを軽視できません。【 c 】【 妻のきょうだいが少なければ、妻にとつても親との関係は重要なものになるからです。

少し家族の話が長くなったので、ポイントをかいつまんでお話ししましょう。親との関係は、資本主義が発達して雇用が浸透するという経済的な変化によって、弱体化する力を^㉕コウムります。しかし他方で、少子化によって親との関係が密になり、長寿化によって親との関係が長期化するという力も働きます。しかしこれは父系のつながりを維持するように働くとは限りません。少子化の中で、妻もまたその親との関係を夫と同様に維持しなければならぬ状況になり、父系的(夫方に偏った)関係を維持することは難しくなります。

さらに複雑なことに、国の制度によつても親子関係は変わります。【 d 】【 年金制度などの高齢期の社会保障が充実すれば、子から親への経済的援助は必要度が下がるでしょう。

どうでしょうか。経済的な変化と人口学的な変化、そして国の政策が、家族（親子関係）の変化と複雑に入り混じっていることがわかったと思います。これらは、もちろん「意図せざる結果」を介した。緩いつながりです。雇用労働の増加は、子を親から独立させるために進められたわけではありません。資本主義の進展が雇用を増やし、その副次的結果として親と子が経済的に独立していくのです。

さらにややこしいことに、若年層の経済的な状況も親子関係に大いに関係します。中国では、若者が結婚するにあたって必要な資金や住居を自分で稼ぐことが難しく、親からの援助をあてにするため、親から成人子への資金の流れが目立っています。欧米社会の一部では、若年層の失業が多く、親と一緒に住み続ける成人子が社会問題になっています。かといって、このような親子関係を生み出すために若年層の失業が意図的に放って置かれる、ということはもちろんありません。人口学的な変化についても同様です。成人後の親子関係を長期化させようとして長寿化が進んだわけではありません。

ここで、気づいてほしいことが二つあります。まず、家族の変化が多くの場合意図せざる結果によって「説明」されているということです。まさに、家族の変化の記述は、意図せざる結果のオンパレードです。次に、一見関係がないように見えるさまざま要因の絡み合いのなかに家族があり、その見えにくい関係に光を当て、解きほぐしていくことで、家族の変化を「説明」できる、ということ。 「原因と結果」に関する考察は、説明の中に入ってきてはいませんが、必ずしも重要な部分ではありません。

「雇用が増えると親子関係が独立的なものになる」「少子化すると親子関係が⑤キンミツになる」という主張は、個々に取り出した場合には、たしかに因果推論の枠組みで検証すべきものです。しかし「社会（あるいはその変化）を記述」するというのは、個々に取り出した主張を検証するという作業の前に、社会を広く見渡した場合のみ、見えてくる知識なのです。そして実際に社会が長期的にこういった「社会記述」が指し示す方向に大まかに進んでいるかどうかを見るためには、必ずしも「条件をそろえて結果を比べる」という厳密な作業は必要ありませんし、場合によってはその作業が無意味になってしまうこともあります。

問一 傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して記しなさい。

問二 【 a 】 【 d 】 に最適な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号を記しなさい（同一記号の反復使用不可）。

ア かつては イ ところが ウ なにしる エ もはや オ ただ カ たとえば キ また

問三 傍線部A「父系を維持できるための条件が、今の日本社会ではどんどん失われています」とあるが、この現象に関係するものとして適切ではないものを次の中から一つ選び、記号を記しなさい。

ア 家が家業を営んでいて、父親が家長としての権限を持っていること

イ 男子が生まれるかどうかの問題

ウ 子供が育った後で結婚・出産に至るのかという問題

エ 資本主義が発達して雇用が浸透するという経済的な変化

オ 高齢期の社会保障の充実

問四 傍線部B「出生率の低下」とあるが、これにより親子の関係はどのように変化すると考えられるか。60字程度で説明しなさい。

問五 傍線部C「緩いつながり」の内容を説明している25字の部分本文から抜き出して記しなさい。

問六 傍線部D「因果推論」は、本文の別の箇所では「原因と結果」に関する考察」とされている。本文からうかがえる筆者の「因果推論」に対する考え方として最適なものを次の中から選び、記号を記しなさい。

ア 因果関係の追及は標準的な科学の手続きであることを踏まえると、「意図せざる結果」に対する合理的な説明こそが重要になるので、「因果推論」の重要性を無視することはできない。

イ 社会は「意図せざる結果」の連鎖によって構成されていることを踏まえると、原因と結果の関係で説明できることは皆無であり、「因果推論」を社会科学に持ち込むことは間違っている。

ウ 社会には我々が気づかない原因や結果が数多くあり、社会科学にはそうした新たな原因や結果を発見するという重要な役割があるので、「因果推論」の重要性は変わらない。

エ 社会が「意図されない」結びつきで構成されているということを強く意識すると、意図せざる結果を含み込んだ社会の記述が重要になるので、「因果推論」だけで社会を記述するのは難しい。

オ 社会には我々が気づかない原因や結果が数多くあるので、社会の一部を記述する場合には「因果推論」だけでは難しいが、社会全体を対象とする場合にはその有効性は変わらない。

Ⅱ 次の文章は梨木香歩「冬ごもりの気持ち」(『炉辺の風おと』毎日新聞出版、二〇二〇年)の一部である。本文を読んで後の問いに答えなさい(設問の都合で原文を一部省略改変した箇所がある)。

冬場の八ヶ岳おろしが凄まじいということは、ある仕事で葺崎へ取材に通っていたとき、経験していた。八ヶ岳から甲府盆地まではやや距離があるというのに、あの突風具合ときたら。【 a 】とただ吹いている、というのではなく、ときには家屋の屋根を剥いだり、ブロックまでもピンポイントで吹き飛ばしたりする。まともに歩くこともできなくなるくらいだ。それが八ヶ岳の中腹ではどのくらいの威力を持つものか。

小屋を入手するとき、うっかりそのことを勘定に入れなかった。けれど甲府盆地に吹く八ヶ岳おろしは、幾つかの方向から吹き寄せる風の複合体であるから強烈なのであって、八ヶ岳の①フトコロに入ってしまったらかえってそれほどではないのではないか、とも、入手した後、風の心配が頭をかすめるたび、そう自分にいきかせては深く考えないようにした。

しかしそれはそう甘いものではなかった。窓から外を見れば、ダケカンバの樹皮が、ビューと真横に、一直線に飛んでいく。ある朝など、起きたら一晩中吹き荒れた風で、庭の若いウラジロモミが、根っこごと横倒しになっていた(正確には、近隣の若くて細いカラマツにもたれかかって非常な迷惑をかけていた)。いよいよ本格的な冬が来たのだ。北海道並みの備えをしなければならぬのだろうか。

版画家の手島圭三郎氏は北海道にお住まいだ。創作者としての②シセイにいつも敬意を払わないではいられない、大先輩の一人である。彼が以前、どこかのインタビューに答えて、冬の仕事の喜びについて語っておられた。

取材など、冬になったら行けない外仕事は秋までに済ませ、雪が深くなると一歩も外へ出ず家のなかで仕事をする、それが冬の喜びであり、冬だからこそその精神的な集中力が出せる日々でもあるという。これは、現代の北海道人には薄れてしまった「冬ごもりの準備の気持ち」が、氏の年代(八十年代)の人びとにはまだ残っているからではないかと。

冬ごもりの準備の気持ち。

つぶやいただけで、南国育ちの私でさえ、遠い記憶のなかにある、【 b 】で大切ななかが頭ちち現れてきそうだ。冬場は食糧事情が悪くなる。これは動物全般、毎年乗り越えなければならぬ危機である。冬中寝てエネルギーの消耗を抑える動物、冬に備えて食糧を備蓄する動物、備蓄しなくても、できるだけ脂肪を溜め込み、また体毛や羽毛の仕組みを冬バージョンにして、体温を逃がさないようにする……etc。

私の子どもの頃でも、田舎に行けば秋は干し柿や干大根などの保存食品がなにかしら準備されていた。母はストーブでよく豆を炊いていた。もっと北のほうでは野沢菜などの漬物を仕込む家庭も、荒巻鮭を注文する家庭もあるだろう。そして雪囲いや、薪の用意……。

そういうことが必要でない社会とは、何と便利で、けれど味気ないのだろう。今はたいいてい、エアコン一つで冬は越せる、けれども。

日照不足になる冬には鬱になるといふ人が多いけれど、冬ごもりの準備の気持ちには、生きる意欲が【 c 】、湧き立つような工夫が、織り込まれていたのではないか。

東北民話風の小説を読んで、「徒然とぜんね」という言葉に出会い、それが寂しい、という意味だと知り、とても驚いた。驚きの理由の一つは、南九州でもそれは全く同じ意味で使われていたからである。

日本の「端っこ」に、古い言葉が残っているというのはよく聞くが、こういう^③アザやかに感情的な(?)言葉が、互いにほとんど交渉のなかったであろう地域で、しかもそれぞれ違った道筋の進化もせず、同じような使われ方をし続け、残っていた……。

驚きの理由の二つ目は、「とぜん」の漢字に「徒然」が使われていたことだ。つれづれ、という言葉は、「手持ち無沙汰、退屈」というような意味だとずっと思っていた。明らかに私の勉強不足で、改めて古語辞典を引けば、確かに「寂しい」という文字も出てくる。背景には「寂しさ」があると思えば、「つれづれなるまゝに」で始まる「徒然草」の文章が、「怪しうこそ物狂ほしけれ」で終わることは、全く違った【 d 】な色合いを帯びてくる。

最近また流行っているクイーンの「ボヘミアン・ラブソデイ」のなかにある、I'm just a poor boy という歌詞の解釈をめぐって話している人びとが、盛んに「貧しい少年」と繰り返しているのをラジオで耳にした。poor というのは、経済的に貧しいという意味の他に、かわいそうな、悲惨な、などという意味がある。英国で、ドラマを見ながら、すっかり女主人公に同情した老婦人が、Oh, poor girl と連呼していたり、私自身、一日遠出して、大変な目に遭ったことを報告しているとき、やはり poor girl と気の毒がられたりした。poor の背景には、そういう意味合いもある。E. E. Schattschneider が、ある種の豊かさを指す言葉で、単に金持ちだけを指すのではないように。

そのようにして、「徒然」を解釈するべきではなかったのか、と^④省みたのだった。「とぜん」の、「と」という言葉には、(以前地名に関する本を書いたときに調べたのだが)風景が突然開けて遠くまで見渡せる、そういう場所に立った、という^⑤感慨が込められている。そう思えば、広々としたところにたった一人で立ち尽くすような、心もとない、何をしていいかわからない不安な気持ちだと想像がつく。

その東北民話風小説では、父一人少年一人の家族で、吹雪の日に父親が出て行く、そのときの気持ちを、「徒然ね」と、少年が訴えたのだった(「徒然ね」の「ね」は、九州でも東北でも「ない」という意味だが、この場合は否定ではなく、形容詞を作る接尾語で「徒然」を強調していると思われる)。周囲を雪に覆われ、たった一人である気持ち。しかしこの少年のように、生死を分かつような不安なのでなければ、例えばフィンランドの作家、トーベ・ヤンソンのように、大喜びでそれ(雪ごもり)を受け入れるだろう人びとも、また多くいる。

孤独であることは、一人を満たし、豊かでもあること。そしてその豊かさは、寂しさに裏打ちされていなければ。それでこそその豊穡、^c冬ごもりの醍醐味。

問一 傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して記しなさい。

問二 【 a 】 ～ 【 d 】 に最適な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号を記しなさい（同一記号の反復使用不可）。

ア 繊細 イ 簡単 ウ 理屈 エ 切実 オ 気楽 カ 自然 キ 漫然

問三 傍線部A「しかしそれはそう甘いものではなかった」とあるが、「それ」は何を指しているか。本文中から9字で抜き出して記しなさい。

問四 傍線部B「冬の仕事の喜び」とはどのようなことか。45字以内で説明しなさい。

問五 傍線部C「冬ごもりの醍醐味」とはどのようなものか。本文中の言葉を用いて、50字程度で説明しなさい。

問六 本文を読んであなたが考えたことを自由に記しなさい。

2022 年度札幌大谷大学社会学部地域社会学科 一般選抜Ⅱ期 国語 解答

一番 (46 点)

問一 ①挟 ②てきぎ ③だんかい ④被 ⑤緊密 (2 点×5)

問二 aオ bキ cウ dカ (2 点×4)

問三 ア (8 点)

問四 親との関係は密になるが、妻も親との関係を夫と同様に維持しなければならない状況になり、父系的関係を維持することが難しくなる。(61 字) (8 点)

問五 一見関係がないように見えるさまざまな要因の絡み合い (4 点)

問六 エ (8 点)

二番 (54 点)

問一 ①懐 ②姿勢 ③鮮 ④かえり ⑤かんがい (2 点×5)

問二 aキ bア cカ dエ (2 点×4)

問三 冬場の八ヶ岳おろし (6 点)

問四 雪が深くなると一歩も外へ出ず家の中で仕事をし、冬だからこそその精神的な集中力が出せること。(44 字) (10 点)

問五 孤独の中で、一人を満たし、何をしたいかわからない不安で寂しい気持ちに裏打ちされた豊かさがあるもの。(50 字) (8 点)

問六 省略 (12 点)